

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）北東アジア事務所

UN ESCAP Subregional Office for East and North-East Asia

本事務所は国連総会決議により、北東アジアの6カ国（日本・中国・韓国・北朝鮮・モンゴル・ロシア）における経済・社会開発を促進するため、2010年5月に韓国・仁川（インチョン）に開設されました。上記6カ国を加盟国とする唯一の多国間協力機構であり、同6カ国が加盟する北東アジア環境協力機構（NEASPEC）の事務局を兼任しています。

ESCAP北東アジア事務所の役割

- ESCAP本部（在バンコク）の業務を北東アジア地域にて促進
- 北東アジア6カ国間の開発協力促進
- 北東アジア地域における国連の開発業務を促進
- 北東アジア環境協力機構（NEASPEC）の事務局運営

社会的格差解消への取り組み

北東アジアは近年経済的に大きく発展しましたが、経済的及び社会的格差が広がっています。ESCAP北東アジア事務所では、経済的・社会的立場にかかわらず、ひとりひとりが参加してよりよい社会をつくること（インクルーシブな開発）を促進しています。また、インクルーシブな開発に関する6カ国間での先駆的な取り組みを紹介し合い、お互いの例から学びあえる場を提供しています。

- 持続可能な高齢化社会づくり
- 若者の社会参加促進
- ジェンダーの平等促進
- HIV・エイズに関する取り組み

北東アジア地域内の交易促進

北東アジア地域は世界有数の貿易国を含み、世界経済と深く関わっています。北東アジア地域の経済状況は、近年主要交易相手国の経済成長の減退などの外的要因に大きく左右され、厳しい状況に置かれつつあります。このような外部からの影響を軽減する手段として、国内消費の促進や6カ国間での交易促進を行っています。また、北東アジア6カ国間の交易促進のみならず、これらの6カ国と他のアジア太平洋諸国との交易促進も進めています。

- 北東アジア地域内の交易促進
- アジア太平洋諸国を繋ぐ、物流運送ルートの整備促進
- 相互経済成長の促進

北東アジア環境協力機構（NEASPEC）を通じた、持続可能な開発の促進

北東アジアの6カ国は、1993年より北東アジア環境協力機構（NEASPEC）を通して、国境を越えた喫緊の環境問題に対処してきました。

- 越境大気汚染の軽減
- エネルギー効率改善のための、協力関係の促進
- 国境地域における環境保護協力活動の促進
- 粉塵・砂塵の予防活動

社会における防災能力の強化

近年、北東アジアは大規模な自然災害により多数の死者を出し甚大な経済的損害を被りました。ESCAP北東アジア事務所では、6カ国間での防災に関するノウハウの共有や協力関係を促進することで、各国政府の防災能力促進に努めています。

- 北東アジアにおける自然災害への防災対策の強化
- 開発計画における、防災計画の主流化

開発のためのパートナーシップ構築

急速に変化する今日の世界では、開発協力の形態も多様化し、工業先進国が発展途上国に対して2国間援助する以外にも、政府、国際機関、市民団体、民間企業、慈善団体など様々な開発関連団体同士の協力関係が必要とされています。ESCAP北東アジア事務所においても、このような多様なパートナーと共に開発協力を進めています。

- 南南協力や三角協力の推進
- 様々な開発関連団体間の協力関係の推進
- 官民パートナーシップの構築

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）とは

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）は、国連のアジア太平洋地域における開発機関として1947年に設立され、62カ国が加盟しています。アジア太平洋地域における最大の国連機関であり、タイ・バンコクにあるESCAP本部では約600人の国際スタッフが勤務しています。

我们的产品



大数据平台

国内宏观经济数据库

国际经济合作数据库

行业分析数据库

条约法规平台

国际条约数据库

国外法规数据库

即时信息平台

新闻媒体即时分析

社交媒体即时分析

云报告平台

国内研究报告

国际研究报告

预览已结束，完整报告链接和二维码如下：

https://www.yunbaogao.cn/report/index/report?reportId=5_5744

